

第2学年「みがく」学習指導案

授業者 藤枝 真奈

2月22日(木) 2階D室 9:00~9:40

1 活動名 たいりつをじぶんたちでかいけつする

2 活動について

毎朝のサークル対話を通して、自分の話を聴こうとする他者の存在を感じながら自分自身を語ることで、相手に訊いて言葉の意味の共通理解を図ることを積み重ねてきた。安心して語り、相手とのことばのズレに気付いて表したいことにふさわしいことばをつむぎ合うこの積み重ねは、意見を表明する力を身に付けた市民を育てることにつながっていくと考える。

子どもたちは、1年生の後半から、ピースフルスクールプログラムを基にした学習をし、自分の意見をもつこと、それが周りの意見と異なってもよいこと、嫌な時は嫌だと言うことは悪いことではないということ学んできた。

1年生後半の半年間ピースフルスクールプログラムを基にした学習を経験した子どもたちは、嫌な思いをしたときに「どうして～するの。」と尋ね、怒りをおさえながら対話で解決しようとしている。しかし、それはうまくいかない時もある。思いや出来事が1年生の時より複雑になっているためもあるだろう。

2年生の後半から始めたピースフルスクールプログラムを基にした学習では、意見が違ってても敵ではないこと、いじめとからかいの違い、怒りと付き合うことなどについて学んできた。本活動では、1年生の時の学習の積み重ねの上に立って、子どもたちの実態に合わせた対立の解決の方法を考えていく。

自分の中にある負の感情を認め、言語化し、他者に伝えられるように、そして、他者が発した負の感情を受け止められるようになってほしい。それらの方法に明確な一つの答えはないが、子どもたち自身が考え続けることが大事である。

本時は、自分たちで対立を仲裁するにはどうしたらよいかを、子どもたちの生活の中で起こりそうな例を用いたロールプレイや話し合いを通して、考え、話し合っていく。仲裁する人の働きを考え、2年3組の仲裁のステッププランを作る。仲裁のステッププランの例としては、次のようなことが考えられる。

- 1 お手伝いしましょうか。
- 2 何が起こりましたか。(子ども1)
- 3 何が起こりましたか。(子ども2)
- 4 つまり～ですね。
- 5 どうやったら解決できるのでしょうか。
- 6 それに賛成しますか。他の解決方法がありますか。(子ども1)
- 7 それに賛成しますか。(子ども2)
- 8 話し合い
- 9 では、～。2人ともそれに賛成ですか。
- 10 解決したことを肯定的に認める。

3 学習活動計画(6時間目/全8時間)

- 例を出し合いながら、けんかに対立の違いを理解する。(1時間)
- 3色の帽子を使いながら、対立をどうやって解決するかを考える。(2時間)
- ウィン-ウィン解決を知り、お互いが納得のいく解決のしかたを考える。(1時間)
- 対立の原因を考え、話し合う。(2時間)
- 自分たちで仲裁する方法を考える。((本時1時間目)/2時間)

4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

自分たちで対立を仲裁する方法をロールプレイや話し合いを通して考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 始まりのアクティビティを行う。 2 今日学ぶことを知る。 自分たちで対立を仲裁する方法を学ぼう。 3 ロールプレイから仲裁する人の働きを考え、2年3組の仲裁のステッププランを作る。 4 学習をふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に自分たちが使いやすく、納得できるステッププランになるようにする。 ○自分の経験やこれからとつなげて考えることを促す。